

第2回 第2次門真市健康増進計画・食育推進計画審議会 会議録

日時：令和6年7月31日(水)14時～16時

場所：保健福祉センター 4階 会議室

出席者：西川会長、新村副会長、木村委員、谷掛委員、中塚委員、山崎委員、市原委員、中道委員、和多委員、小峰委員、小野委員、中尾委員、三村委員

欠席者：品川委員

傍聴者：なし

事務局：保健福祉部高田次長、福祉政策課藤井参事、

健康増進課：笹井課長、池尻参事、中井主任、松山上席主査、青木係員、佐藤係員、奥野係員、吉岡係員

議題：1 市民アンケートの結果について

2 策定委員会及びワーキング会議の開催状況について

3 計画骨子案について

4 今後の計画策定スケジュールについて

5 その他

【事務局】

- ・ただ今より、第2回 第2次門真市健康増進計画・食育推進計画審議会を開催いたします。委員の皆様におかれましては、本日は、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。本日、司会をさせていただきます健康増進課長の笹井でございます。よろしくお願いいたします。
- ・本日は、11名の委員のご出席をいただいております。お2人の方には少し遅れてお越しただくとうかがっています。門真市附属機関に関する条例施行規則第5条第2項の規定により委員総数14名の過半数が出席となり、会議が成立していることをご報告いたします。なお、傍聴希望の方はおられませんでした。
- ・また、後日議事録の作成を行うため、本日の会議を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。
- ・携帯電話をお持ちの場合は、電源を切るか、マナーモードにさせていただきますようお願いいたします。
- ・それでは、本日の資料の確認をお願いいたします。本日の資料は
次第

【資料1】市民アンケート調査結果 報告書（案）

【資料2】計画骨子案

【資料3】第2次門真市健康増進計画・食育推進計画策定実施スケジュール（案）

【参考資料1】門真市附属機関に関する条例

【参考資料2】門真市附属機関に関する条例施行規則

【参考資料3】第2次門真市健康増進計画・食育推進計画審議会委員名簿

【参考資料4】第2次門真市健康増進計画・食育推進計画審議会の会議公開要領

【参考資料5】第2次門真市健康増進計画・食育推進計画審議会の会議傍聴要領

【参考資料6】計画冊子

資料は以上でございます。資料は全て揃っておりますでしょうか。もし、不足の資料がございましたら、おっしゃってください。

- ・それでは、ここからの議事進行については、会長は少し遅れておられますので、新村副会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【新村副会長】

- ・よろしくお願いいたします。会長がちょっと遅られるということで、私のほうが代わりに進めさせていただきます。新村と申します。よろしくお願いいたします。
- ・それではお手元の会議次第によりまして、会議を進行させていただきます。次第1の市民アンケートの結果について、事務局に説明をお願いいたします。

【事務局】

- ・「市民アンケートの結果について」は、シティコード研究所さんより説明をさせていただきます。シティコード研究所さん、よろしくお願いいたします。

【事務局】

- ・シティコード研究所の向井と申します、よろしくお願いいたします。まず、お手元に資料1、市民アンケート調査結果最終調査報告書案を出していただけますでしょうか。まず1ページ目、調査の内容にあたります。第2次計画の策定に向けたアンケート調査として、小中学生、幼児の保護者、20歳以上市民の3つの調査を昨年10月から12月にかけて実施しました。幼児の保護者と20歳以上市民については今回より回収率の上昇に寄与できるかと考えましてインターネットを通じた回答も受け付けるとともに回答依頼兼催告状を送付し、前回調査より回収率がやや向上しました。
- ・次に5ページをお開きください。20歳以上のBMI（体格指数）ですが、前回と比べて肥満の人が増えています。また、6ページの自分の体型についてどう思うかでは、太り気味・太り過ぎと自覚する人が前回より増えています。
- ・次に8ページをお開きください。小中学生の運動の状況で、中学2年生の運動頻度が前回より落ちていますが、これは部活動の見直しにより活動する日が少なくなったこととの関連がうかがえます。
- ・12ページの運動習慣の状況をみますと、運動習慣のある人は男性が21.3%、女性が11.0%にとどまっており、30歳代の男性や20～50歳代の女性で10%を下回っています。
- ・14ページでは、小中学生、20歳以上とも自分が運動不足であると認識している人が多くを占めています。
- ・次に18ページ、20ページ、21ページを見比べてください。朝食を欠食している人（毎日食べていない人）が小中学生、幼児、20歳以上のそれぞれで前回より増えています。

- ・30ページ、幼児の保護者の野菜の摂取状況では、前回より摂取量が減っています。関連して34ページ、20歳以上の年代別結果をみますと、30歳代など若い人で野菜の摂取量が少ないことがわかります。
- ・次に50ページをお開きください。小中学生の喫煙率は小学5年生が2.5%、中学2年生が3.4%となっています。また、53ページの20歳以上の喫煙率をみますと、男性は32.4%、女性は13.3%となっています。
- ・56ページ、喫煙者の禁煙への関心では、禁煙しようと考えたことはあるがやめられないが46.2%、関心がないが25.4%と、禁煙に結びつきそうにない人が多くを占めています。
- ・57ページ、59ページでは、小中学生、幼児とも40~50%が家族の誰かがたばこを吸っていると答えており、家庭内で受動喫煙にさらされている状況がうかがえます。
- ・次に65ページをお開きください。小中学生とも平日の朝に眠くてなかなか起きられないという子どもが増えています。
- ・ストレスの状況について67ページ、69ページをみますと、ストレスを感じている子どもは減っていますが、ストレスを解消できていない子どもが増えています。また、70~71ページのストレス解消法ではゲームが多くみられます。20歳以上市民では、72ページのストレスを感じている人、75ページのストレスを解消できていない人のそれぞれが前回より増えています。
- ・次に86ページをお開きください。小中学生の飲酒率は前回より減っています。89ページ、20歳以上の飲酒状況では、男女とも20歳代でアルコール離れの傾向がうかがえ世間で言われている傾向にも合致しています。60歳以上の男性で高い飲酒頻度となっています。
- ・最後に97ページ、98ページをお開きください。健康に関する情報源として小中学生では家族や学校に次いでインターネットが多くみられ、20歳以上についてもインターネットが最も多くなっています。アンケート調査の主な結果については以上です。ご感想や第2次計画に向けたご意見を頂戴できればと思います。

【事務局】

- ・補足ですが、市民アンケート調査の結果については、ワーキング会議にて、こどもの睡眠時間や生活リズムが朝食欠食率に影響しているのではないかと。こどもの遊び方が、身体を動かす遊びからゲームやSNSでつながるといように変わってきていることが、運動不足とも関連しているのではないかと。門真市は公園の数が少なく、狭いところが多い。道路公園課が「パークイノベーション」を計画中。地域整備課と連携して、空いた土地にグラウンドや公園を整備予定。大人の運動に対する情報発信が足りないのではないかと。という意見が出ました。
- ・さらに、策定委員会では、中学2年の運動の値が下がったのは部活動ガイドラインによって活動時間の縮小が行われたことの影響があるのではないかと。市が行っていることが伝わっていないのではないかと。市全体として健康意識が低いのではないかとという意見がありました。

【新村副会長】

- ・ただいまの事務局からの説明について、何か質問等はございませんか。たくさんの資料で情報がたくさんございますので、順番にお聞きしていきたいと思いますが、まずはじめの体格というところで肥満度ですとか、5~7ページあたりで何かご質問ございませんでしょうか。

- ・私から少しお聞きしたいのですが、体格のところでは肥満のところにはばかりどうしても目が行ってしまいがちですが、小中学生と若い女性の方というのは拒食症などのリスクもございまして、実際の体型よりも自分の体型を誤って認識して自分は太っていると認識する若い、特に女性が多くいます。そういった子たちがどうしても拒食症ですとか摂食障害というところにも行きついてきますので、今回のアンケートも少し拝見させていただいていたんですが、実際にほとんどのお子さんが普通や若干痩せ気味のお子さんで、でも自分の体型についてどう思いますかというところで、痩せ気味と認識できているお子さんは非常に少なく、普通、もしくは自分は太り気味であると認識している若い人たちが多くという印象を受けましたので、このあたりも少し教育現場も含めて今後取り組みというものが必要になってくるのではないかと感じました。

【木村委員】

- ・5ページの年代の男女別で、大阪府の値と比べて肥満がちょっと多いような、適正なところが少なく体格がいいということなのか、子どもの4ページのローレル指数小学校5年と中学校2年生を国と比べても太り気味がちょっと多いという感じですが、気になったのは次の6ページの60歳以上の低栄養傾向者、定義が一緒ではないので比べられないかもしれませんが、国とか大阪府は65歳以上のBMI 20以下というので低栄養傾向者を出すのですが、ここは60歳以上なので年代が違うので同じには比べられないかもしれませんが、大阪府で10.7、国で10.3という値になっていたのが倍ぐらいですが、60歳以上だからまだそんなに痩せ始めてないんだらうなと思うと、意外とフレイルの人が多くいかもしれない。99ページにあるフレイルの認知度もかなり低いんじゃないかなと。知らないという人を合わせると8割以上になっていると。
- ・先生のおっしゃった若い女性もですが、高齢者の低栄養も注意が必要かと思えます。

【新村副会長】

- ・はい、ありがとうございます。フレイルの認知度が非常に低いというのは99ページの方でもわかりますし、認知度が低い方もあまり意識していない、できていないので低栄養傾向者に。どうしても低栄養になりますと筋肉量、骨量なども減ってまいりますのでフレイルにも発展してまいりますので注意が必要だというご意見です。
- ・今現在何か取り組みとかというのは、フレイルですとか、栄養関係のようなものでありますでしょうか。

【事務局】

- ・フレイルにつきましては、健康講座などいろんな機会を通じてお知らせをするように努力はしているところですが、今回のアンケートではご意見が出たように、まだ認知度は十分ではないと考えております。健康増進課だけではなく健康保険課、あるいは高齢福祉課など、あるいは健康に携わる事業を持っている課からも協力して発信しているところですので、引き続きそういった取り組みはさせていただく必要があるかと思っております。

【新村副会長】

- ・ありがとうございます。またよろしく願いいたします。

- ・続きまして、運動・身体活動に移っていきたいと思います。8ページ以降のところになりますがいかがでしょうか。
- ・学校の方では運動する機会は減っているのでしょうか。

【三村委員】

- ・私は小学校なので、小学校はそんなに大きな変化はないと思っていたのですが、中学校のしていないというのが増えているというのはクラブの制限にかかわらず、部活動をしていないというのが増えたのかなと思います。
- ・中学校のクラブの数は、教師の働き方改革がありますので減っていると思うので、時間とか回数でいうと若干減っていくのかなと思います。
- ・ちょっと気になるのは、このしていないというのがかなり5ポイントぐらい増えているというのはどうしてかと思います。

【新村副会長】

- ・確かにちょっと増えていますね。このところ何か市の方でお子様の、例えば中学生であったり小学生であったり、何か運動をするきっかけになるようなイベントは学校さんと一緒に何かあるのですか。

【事務局】

- ・お子さんがスポーツに親しむというところで、走り方が上手くなるとかそういうところで、陸上の選手をお呼びして走る練習を小学生の年代のお子さんや保護者の申し込みを受けて、走る練習、学習会のようなものを生涯学習課の方でやっていたり、秋のスポーツに親しむ時期にそういうイベントをやっていたりはしているんですけども、継続的にやっているようなことは特になく、イベント的な形で行っています。

【新村副会長】

- ・ありがとうございます。素敵なイベントですね。そういうのがいろんな種類であれば、お子さんも何か始めるきっかけになるかもしれないので、ぜひいろいろやっていただきたいと思います。
- ・成人のところ、20歳以上のところで何か気になる点やご質問がありましたら。かなり30代、40代の方の運動実施率は低いなという印象を受けたんですけども、1回30分未満だけでも運動をしているという人の割合というのは、少し増えているという感じですかね。

【事務局】

- ・計画策定を支援していただいているシティコードさんとの話のなかでは、やはりコロナが影響してかなり運動的機会が減ってきたり、その習慣を続けていらっしゃった方が中断しているような状況ということは伺っております。門真市に限らず他市でも同じような結果が出てくると聞いておりますので、さまざまな年代の方で運動が必要なところは見られると。特に高齢者の方がコロナの時に感染予防ということで自粛されましたので、高齢者の方の運動不足というのが特に見られるのではないかという意見をいただいているところで、そういう数字になってきています。

【新村副会長】

- ・わかりました。これから実施されている方が増えていくといいですね。
- ・ちょっと30代、40代の方が少ないのはお忙しいからなのかなと。子育て、お仕事で忙しくてなかなか時間もないのかなというのを感じながら拝見させていただいた。
- ・これは運動をどれくらいされていますかというところを質問されて、行動変容ステージとかは別に調査はされていないということですか。例えば、今実際やっているのか、1年以上続けているのか、ちょっとやってみようかなと思っている準備段階だとか、そういった段階、どの段階に自分がいるかというのを調査する簡単なアンケートとかもあるんですけども、今回そういうのをとってはいらっしやらないですかね。喫煙のところもよく似た内容が聞かれていて、禁煙しようと思っているけどできていないとか、する気はないとか。それに似た聞き方で運動についてもそのあたりを調査されていたら、取り組みというところも出てくるのかなという気はします。
- ・物理的にできないのか、それともやろうと思っているのかとか、ありますか。

【事務局】

- ・アンケートの内容によりますと行動変容については特にお伺いしておりません。

【新村副会長】

- ・わかりました。ありがとうございます。若い方がこの後また中年期に移行して高齢期に移行していきますので、高齢者の方の運動も大事なんですけど、若い方も何か対策が取れるといいですね。

【事務局】

- ・運動の部分で言いますと、聞いているのが1回当たりの時間、運動の頻度、運動の継続期間という形になっているので、行動変容に関する設問を設けていないため、少しそこはクロスのような感じがするという状況です。

【新村副会長】

- ・はい、わかりました。継続期間は一つ参考になるかもしれないですね。ありがとうございます。
- ・14ページのところなんですけれども、運動不足だと思いますかという質問に対して、結構お子さんも若い成人の方も自分が運動不足であるという認識は結構できているんだなと思ったのですが、分かっているけどしない、分かっているけどできないというところで、どうアプローチしていかないといけないかというところがすごく大事になってくると感じました。認識できていないのであれば問題ですけども、ちゃんと分かっているらっしやるんだなというところですね。
- ・ロコモティブシンドロームも先ほどのフレイルと同様にちょっと認知度が低いと思って16ページを拝見させていただいていたんですけども、こちらも実際、ロコモはどんなものですよというようなお話とかは住民の方にはされていますか。

【事務局】

- ・フレイルと併せてロコモティブシンドロームについても周知をするように努力しているところでございます。

【新村副会長】

- ・分かりました。もっとたくさんの方に知っていただけるといいですね。ありがとうございます。
- ・17ページの運動を始めたり続けるために必要なことですがけれども、時間的なゆとりというところで、一番多いのがお忙しい方が多いんだろうなと思いました。2番目の身近に運動ができる場所というところで、後ろの108ページの幼児の保護者の方に自由記述で、成人の方もそうだと思いますけども、お子さんを持たれている保護者の方は子どもが安心して運動できる場所というのをすごく求めてらっしゃる。
- ・このあたりには公園というのはあるんですかね。

【事務局】

- ・大きい公園というのがそんなにない状態です。小さな公園はいくつかあるのですが。

【新村副会長】

- ・いろんな地域で子どもたちがもっと伸び伸び運動できるような、遊べるような公園が欲しいという声を取り上げた論文とか研究とかもあります。やっぱり今、子どもの声がうるさいとかニュースでもあり、近隣の方からクレームが来たり、思いっきりボールを蹴ったり走ったり騒いで動くということができないところが増えてきているという問題もありますので、今後また長い目で見ていただいて、子どもたちが伸び伸び外遊びができるような環境というの。
- ・もしかしたらあまり興味がない、ゲームが好きというお子さんもいらっしゃるかもしれませんが、安定に遊ぶところがないからそっちに行っているお子さんもいらっしゃるかもしれないので、そういうのも地域で作っていただけたらと感じました。

【小野委員】

- ・11ページで、1回30分未満が増加しているのは、内容としてどんなことをしているのか、ウォーキングとか、ストレッチとか、体操とか、具体的にお伺いできればよかったですと思いました。

【新村副会長】

- ・運動の種類ですね。今後、アンケートを作る際の参考にさせていただければと思います。ありがとうございます。
- ・他にございますか。なければ、次に18ページから、栄養・食生活・食育のところになりますけれども、何かご質問やご意見などありましたらお願いいたします。

【木村委員】

- ・朝ごはんについては府よりかなり数値がいい感じなのですが、前回より毎日食べる人が1%くらい減ってはいますが、年代別で見ても府より毎日食べる人が多い感じで、結構食べられている方なのかなと思いました。
- ・食べられなくなっているのは事実ですけど、やっぱり国や府と一緒に時間がないというのが、先ほどの運動も忙しいというのと同じで、あわただしい毎日を過ごしているのだなと、生活、食事を楽しんでほしいなというのがここから見えてきますね。
- ・45ページ、食育への関心がある人が減っていて、基本計画ができたり国をあげての食育運動があったときから若干時代が離れて、言葉に新鮮味がなくなったのかとも思うのですが、次の46ページに行くと食品ロスなどは子どもたちや保護者たちもしっかり無駄なく使い切りたいという気持ちもあるので、食育に関心がないというよりも、いろんなクッキングとかだけでなく、

食べることと地球環境がつながっているという中で、そこに興味・関心がとらえやすいポイントなのかなと思うので、その辺りから食育を広めていったりすると、特に子どもたちにもこれから社会を作っていくてもらおう一翼なので、一緒に考えようとするとな人で生きているんじゃないからみんなつながって生きているところがあるよね、みたいなテーマとして大切な時代なのかなと思いました。

【新村副会長】

- ・そうですね、食育というワードは最近あまり聞かないですね。確かに食品ロスをなくそうとか、SDGsというところでそういうワードのほうが目につくのかなという気がします。
- ・あと、食品も含めいろいろ物価の高騰というのもあって、やっぱり残さないで大事に食べていこうというような傾向がある感じがしますね。ありがとうございます。
- ・109ページのところなんですけど、こちらの幼児保護者の自由記述欄でも、食品の価格高騰の話もありますが、メニューを知りたいとかレシピを知りたいとか、子ども向けの食に関する体験イベントを門真市で開催してもらいたいとか、保護者もいろいろ自分自身も勉強したいし、お子さんにもいろいろ学ばせたいと感じてらっしゃる方も多い印象です。こういう声を見るとちょっと安心すると言いますか、そういった意識の高い保護者の方もいらっしゃるのかなと思います。
- ・実際に今何か食育のイベントなどは市でされたりしていますか。

【三村委員】

- ・給食選手権として、メニューを子どもたちが考えて、一番いい賞を取ったメニューが実際に給食に出てくるということであるとか、食育に関しては全小中学校でおそらくプランをちゃんと教育に乗せてやっていますし、教科の中にも絡めて、例えば国語の読み物教材で大豆の変化を知ろうということで、豆が豆腐になったりとか、煮たらこうなる、焼いたらこうなるみたいな勉強を国語の中を通して、文章を読み取るということを通してやっています。
- ・いろいろ関連付けさせて、食育というのはたぶん子どもらの意識の中にはありますし、大事にしていきたいというのは学校現場でもありますし、もちろん行政の方にも協力いただいていることもたくさんあります。

【新村副会長】

- ・わかりました。ありがとうございます。次の世代の子どもたちはしっかりとここは勉強しながら進めていらっしゃるということですね。でもいいですね。家庭科とかだけではなくて、国語ですとか他の科目を通してそういう食育について勉強されるというのは素晴らしいことだと思いますので、今後も学校の方によろしく願いいたします。
- ・またイベントとかもいろいろしていただけたらなと思いますので、よろしく願いいたします。
- ・すみません、時間が押してしまっていて次に進みたいと思います。タバコのところですね、喫煙のところはいかがでしょうか。50～64ページまで、何かご質問、ご意見などがありましたら、よろしく願いいたします。
- ・質問ですが、喫煙率が他の地域に比べると結構高いものなのですか、平均的ですか、お子さんのデータを見ていて。

【事務局】

- ・そこまで多く見ているわけではないですが、他市と比べてそんなに多いという感じはしません。どうしても法律上子どもが吸っているのは問題ではあるんですけども、調べると数%はあがっていくというのは仕方のない部分があるというのが実際だと思います。逆に、黙って隠していてもいいわけですけども、ちゃんと答えてくれているので、この数字はそこまで大きく事更にという話ではないと思います。
- ・逆に、これはお酒の方もそうなんですが、もう皆さん世間でもよく言われるように、若い人たちは煙草も酒もやらないというような流れになっている状況にも沿ってまして、今やっている人というのは筋金入りの人という傾向がありますので、そういうところもあるのかなと思います。これは受動喫煙もそうなんですけれども、ちょっとやめられないというような方々が引き続き飲酒喫煙しておられるという傾向があると思います。

【新村副会長】

- ・はい、わかりました。ありがとうございました。できれば小中学生のところはゼロに近づきたいなというところにはあるんですけども、ちょっと興味があったり、お友達や先輩に勧められたからとか、大人になった気分だからとか、そういう回答がありました。
- ・この辺り、保健の授業とかでも喫煙の怖さについてはいろいろ勉強していると思いますので、子どもたち自身も吸っちゃダメなんだなと気づいてもらえるような環境づくりをこのまましていかなければいけないと思います。
- ・確かに、全国的にタバコを吸う人は吸いにくい環境になってきているのもありますけれども、減ってきているのかなと。大学も今校内全て禁煙になっていますので、喫煙所すらないような学校が増えていまして、喫煙すると呼び出しをされて叱られるというような厳しい時代になってきております。健康状態を悪くしないという意味でも、受動喫煙も含めて、できるだけ無くす方向で進めたいとは思っています。
- ・COPDの認知度も61ページ、受動喫煙の言葉の認知度というのは少しずつ定着してきているという気がします。ただまだCOPDは知らない方が多いと思いました。こちらもいろいろ市の方で案内などはされているということですね。禁煙指導のところ。

【事務局】

- ・COPDについては市から積極的にお知らせするようなところはまだ出来ていないので、アンケートの方でもそういう数字が出てきているかと思います。
- ・医療機関の方で積極的に禁煙外来をやっているところをお知らせし、計画の中でも禁煙することを推進していますよというお知らせも入れて、禁煙を進めましょうといったところはやっています。それにつながって医療機関の方でCOPDについてはよくポスターの掲示や、肺がこんな形になりますよとか、肺疾患が起きますよというようなお知らせをしてくださっていたかと思います。

【新村副会長】

- ・ありがとうございます。そういうポスターなども見ながら皆さんに周知していると。

- ・もう今、中学校高校の保健体育の教科書の方にはCOPDも書いていますし授業でもありますので、子どもたちは自然とその言葉というのは大人になっても忘れないで覚えているのではないかと思います。
- ・喫煙、受動喫煙の影響への意識というところで、62ページ以降でもいろんな病気になるリスクが高いということは、子どもから大人まで高い確率で皆さんしっかり理解されているようですので、今後どんどん改善していけばいいと思います。

【西川会長】

- ・大変に申し訳ございません。朝から途中ですごく大きな事故がありまして、すごい渋滞で遅れました。お疲れ様でした。
- ・朝から実は考えたのは、倫理資本主義という経済哲学の人が言っている話をずっと見ていて、産業界の人とか、行政とか、その他関わりの人が倫理を中心にみんなが協力しながら資本主義を伸ばしていったらいいねという考え方が、かなりホットになっています。医療界ではメッセージRNAというワクチンを使って急速にできて、それがみんなの命を救って大儲けしたんですけども、そういう経済の発展の仕方というのがこの世界にあっていいよねという話があって、割とメジャーな考え方になりつつあります。
- ・そういったものも健康増進計画とか、地域にもし作れたらいいなという話を前から考えており市の人には申し上げていますが、もしかしたらそういう企業とコラボすることでできたらいいなというところです。すみません、遅れまして。

【新村副会長】

- ・アンケートの説明をいただき、ちょっとテーマごとに量が多いので皆さんに質疑応答の時間を持たせていただき、心の健康・休養のところでは皆さんの意思をお聞かせいただいているところです。

【西川会長】

- ・全体的にはこの地域のデータが出ているということですが、これは大阪府下全部との比較というのではないのでしょうか。

【事務局】

- ・今回のレポートのなかでは比較はしておりませんが、ある程度大きな差などがなければ内部でチェックしつつという形になっています。

【西川会長】

- ・もし良かったら全国とか大阪などとの比較があればありがたいということも事前に話していたのですが、ありがとうございます。

【新村副会長】

- ・70ページと71ページで、ストレスというのはいつの時代も外からのストレスは受けるもので、ストレスが全くなかったらなかったで弱くなってしまうので多少のストレスは必要かとは思いますが、ただそれをやっぱり解消するというのはすごく大事なことで、自分で解消していくというのは重要だと思います。

- ・子どもたちの小学校5年生、中学2年生のストレス解消法の上位にゲームをするというのが上がってきておまして、これはやっぱり最近の傾向なんではないでしょうか。そういうのは以前からこういう傾向が強かったのか。自分が子どもの時は、嫌なことがあったら外で友達と走り回って遊んだりですとか、中学生くらいになったら友達同士で楽しく話をしてすっきりさせたりといった思い出がありますが、こうやって見ていると、今オンラインゲームなど色々ありますが、ゲームをしてストレス解消していくのが多いんだなと見ていたんですが。

【事務局】

- ・やはり子育て関係のアンケート等でも同様にゲームであったり、インターネットをする、いわゆるブラウジングするとか、そういうのがやはりこの10年くらいで手元に子どもたちでもスマートフォンなどが手に入るような時代になったので、どうしてもそういう比率が上がっています。昔はパソコンがなければできなかったので、高額かつ大人くらいしか使わなかったという傾向もあったかと。
- ・あとは先ほど公園の話がありましたけども、やはりそういうのが非常に関連しているようで、外で遊ぼうにも結局行ったら怒られたりであったり、そもそもボール遊びが禁止であったとか、あとこれもずいぶん古くはなりますが遊具で事故があって以降、結局公園といってもただの広い平地という形で遊ぼうにも遊びようがないという感じで、どうしてもそういう部分があるかと思えます。
- ・個人的な感覚としては、ゲームといっても最近オンラインゲームだとかそういうものが増えてるので、結局その通信を使って友人達となんだかんだ言いながらコミュニケーションを取りながら遊べるので、昔のようにゲームを一人で黙々と遊ぶというような、ちょっと引きこもり感のあるようなゲームともまた現代は違うような傾向があるのかと思えます。

【新村副会長】

- ・ありがとうございます。

【谷掛委員】

- ・70~71ページの小中学生を見ても、今回は食べるということでストレス解消している人がすごく増えているんです。確かにちょっと肥満も気になっているので、食べるじゃなくて他のストレス解消方法を皆さんに啓発していかなければと考えています。

【西川会長】

- ・ありがとうございます。公園遊びができない、食べる方に偏らせてはいけない、ネットで繋がりが合いながら遊んでいるという状況ですね。

【中塚委員】

- ・ストレスの解消というのは、医学的にというか、心の健康という意味では解消した方がいいのか、解消の仕方考えた方がいいのか、どういうふうはこのデータを捉えたらいいのか。
- ・例えば、子どもを治療していますと顎関節症の関係から言うと歯ぎしりする子どもがかなり増えていますが、これは今分かり始めたことがありそういう病名が付いたので子どもの歯ぎしりが多く目立ってくるのもありますが、顎関節症学会のデータだと歯ぎしりを止める方がいいのか、それとも思いっきりさせた方がいいのか、これは実はあまりよく分かっていない部分

もあるんですね。例えばそれをストレス解消として行っており、その間に脳からセロトニンが出てストレス解消になっているかもしれないということがあり、もしかしたらストレス解消というのは、例えばゲームをよくする方向に、eスポーツなんかもありますしね、いい方向に行く可能性もありますし、食べること、先ほど言われたように食育の観点では食べることを楽しく持っていくことによって、すごくストレス解消、心も体も健康になる可能性もあるので、このデータというのはかなり面白いというか、見ようによっては裏、逆に見れるかなという感じがするんですけどいかがでしょうか。

【西川会長】

- ・医学の方から見ると、基本は動物なんですね、人間は。心を持った動物で、原初に遡ってあるべき状態を想像し、健康であるか健康でないかということを考えることが多いのですが、食べるのは食べるでいいですがピザばかり食べてるのではまずいねとか、やはり草も食べないとねとか、雑食の動物として生まれてきた人間の場合にはそういう風に考えるし、歯ぎしりをして顎関節症になるのであればマウスピース噛ませる方が生体に問題が出ず顎関節症にならない方がいいよねという風に考えたりするのが基本です。
- ・心の話になると、基本的には人間というのは一人で生きているわけではないので、間主観的存在と言いますが、人と話しながらこのように生きていこうか、このようにしようかと決めて社会的な動物として生きているので、そこを活かさないと、孤独にさせてはいけないとか、情報を遮断してはいけないとか、そういうことは考えながら見ていることが多く、だからその子がもし孤立しているのであれば、さっき言ったように一人でゲームをしているのであれば孤立している、ネットにつながっているのであればちょっといいかもね、でも体を使わないんで、といったバランス感覚で見ることが多いです。
- ・やっぱり、会った時に目がキラキラしているとかそういったことが大事で、目が死んでいるみたいな感じだとまずいなと思います。それがまあ医師の方かなと。教育の方も、お父さんお母さんとしてもそのように思うのではないかと。
- ・医学的にもし取り組みという言い方をするなら、突出したところはピックアップしていき、そこを健康な方に治すという考えも必要だと思います。
- ・全体の方向としては、コロナで社会が被っているものを元に戻さなければいけないというのが一つの大きな方向性としてあるのと、地域的に偏っているものがあればそれを補正していけばというのが大きな流れかと思います。一つずつ見ると訳がわからないので、そういう大きな見方をしていけば良いのかなと思います。
- ・動物的なところから見ると、体を使ってコミュニケーションを取りながら、ワイワイ遊んでいるというところを重視することかなと思います。

【木村委員】

- ・こういう形で見ると、インターネットをするというのもポイントが上がっていますが、大学生などは他人と比べて自分に自信がなくなっている若い人が多く、一番なんでもできて楽しい年頃だと思いますが、インターネットも見たいから見ているものの、それがまたストレスになって人と比べて自己否定みたいな、ストレス解消でありまたそれがストレスといった、その世界

がすごく狭くなってる感じがするので先生がおっしゃったみたいに直の交流であるとか体験などを取り戻さないと、自分の概念の中だけで頭でっかちになっていて、そして寝る前までブルーライトを浴び続けてよく眠れないといった悪循環になっています。

- ・睡眠ガイド2023が出たところですが、そこでは子どもについても寝室にスマホを持ち込まないとか、何時間前からは止めるとか、特定の時間や対処法の指針が示されたので、保護者の人がある程度きっちりルールを決めましょうといったものが、分かりやすく示されるといいのではないかと思います。

【西川会長】

- ・ありがとうございます。精神疾患の分野とかでも、例えば強迫性で手洗いしないと気が済まないという人がおられたとして、でもすごい清潔なのが好きな人なのか、強迫性の問題があるのかというのを区別するのは、手洗いの行為が日常生活に差し障るかどうかというところで決めます。月経困難症でも生理痛がすごく激しいけれどもそれは日常生活に果たしてその影響を及ぼしているのかというところで医療的な判断を行います。一定以上生活に影響を与えるようなライン、それがガイドラインにしますというのであればそういうのはお勧めで、ガイドラインにして整備したものは一旦これを通していくという考え方は大事じゃないかと思います。
- ・ちゃんと休めるような環境を作っていきます。ネットについてはそのガイドラインを使って少し制限してもいいので、子どもたちには直に遊べるような社会的配慮が必要ではないか、食事については多様な食べ方をするのはOKですが食べることで肥満が増えるような状況は問題があるといったところでしょうか。
- ・続きまして歯と口の健康ですがどうでしょうか。

【中塚委員】

- ・80ページから言うと、虫歯の本数が2本以上、3本など正確に分かってらっしゃるのはなぜですか。検診の結果ですか。
- ・後のデータにも出て来ますが、いつ歯磨きをするのかと絡んでくる点で、朝食後に歯磨きをして、昼食後に歯磨きをして、夜寝る前に自分で磨いてお母さんに仕上げ磨きしてもらいましょうねというのが100点なんです。
- ・食べた磨くというのが当然のことで、仕上げ磨きをしないとなかなか小学校の低学年の児童の方には難しいので、仕上げ磨きをしてもらうというときに何本あるかというのがわかるかと思いますが、パッと見で何本かわかっているというところは受診につながっているはずなので、85ページで受診している、しかも通院中というのが増えてきているのかと。
- ・いつも成人検診などは市の方から協力していただいて、はがきを送らせてもらっていますので、それが増えてきて認知は上がっており、前回のデータよりも、今回の方が知っている割合が40%から50%に増えているので良いデータが出ていると思います。
- ・話を戻しますと、ここの虫歯の本数を知っている方が、どんどん受診していただいて、虫歯がゼロになっていく方に増えていけばと思います。この聞いていただいたアンケートが全部リンクしてきているのかなと思います。

- ・84ページでいうと、歯磨き、歯ブラシ以外にどのようなものを使って歯を磨いていますかというのを見ていると、歯磨き剤を使っているというのは当然のように見えますけれども、歯磨き剤の中にはフッ素が入っていて、日本の場合は水道水にフッ素が少なく、虫歯ゼロの先進国というのはフッ素がかなり入っているという話があります。健康上のことも考えて、歯磨き粉を使うのが日本の歯磨きの仕方ということで、歯磨き粉をたくさん使って、昔は少なく使って泡を泡立てないようにと言っていたのですが、今は違います。今のスタンダードはたくさん使って、ほぼ流さないで吐いて終わりというのがスタンダードになりつつありますので、それで80%という値が出ているのはいいかなと思っています。
- ・ただし、補助的清掃用具の糸ようじやデンタルフロス、これは歯間のところを磨くやつで、歯間ブラシというのはその下を磨くのですが、これが少ない。大人の方はほぼ歯間をちゃんと磨かないと100%磨いたことにならないので、これがもっと増えていってほしいと思いますので、教育講座や市の協力で我々歯科医師が教えていくのが一番いいのかと思います。

【新村副会長】

- ・今、勉強になるなと思って聞かせてもらっていたのですが、このアンケートを見ながら正解ってどれなんだろうと思っていました。いつ歯磨きをしますか、どんなものを使って歯を磨いていますか、なんとなくいつも自己流でやっているの、どれが正解なのか、現行計画を見ると26ページのところに、個人や家庭でできること1日2回朝晩も歯磨きを習慣化しようというのが書かれており、少なくとも1日2回という意味だと思いますが、これを見た一般の人が2回でいいんだと誤った認識をしてしまうこともあるかもしれませんし、デンタルフロスは使っていますが、これは本当に使っていていいのか悩みながら使っていたりということもあったので、今日お話を聞いて良かったと思っています。
- ・何かアンケートの結果を見て、正解というか、こういうのが望ましいみたいなものを載せたり、子どもや保護者にアナウンスできるような、手紙やチラシを渡したりすればすごく分かりやすいのではないかと思います。

【西川会長】

- ・ありがとうございます。

【中塚委員】

- ・学校に行っていると、なかなかコロナのこともあり磨けないんですよ。だから、2回きっちり、親御さんも協力してくれる方がいたら、仕上げ磨きのことも話をできたらいいねという話をしていたんですよ。そういうこともあり、なかなか100点をアナウンスはするけども、やってというのはなかなか難しいなと思います。

【西川会長】

- ・介護の感染症の専門の勉強会でも、パッと周りに細かい霧が飛ぶのですごくコロナ感染のリスクが高いという教育を受けていますが、そういう点ではコロナの影響を歯科の先生も受けていますね。

【木村委員】

- ・デンタルフロスカ歯間ブラシ、どちらかを使っているから合計したら7割ほどになりませんか。両方使うんですか。

【中塚委員】

- ・デンタルフロスが通るところと歯間ブラシが通るところは違うので、全部歯間ブラシだけでOKということでは本当はないんですが、足してもいいかもしれません。もし70%くらい行っているのであればよいのですが。

【新村副会長】

- ・何歳くらいから歯ブラシ以外のものを併せて使うのがいいですか。子どもさんも使ったほうがいいんですか。

【中塚委員】

- ・使った方がいいです。子どもっていうのは、もう6歳になったら大人の歯が生えてきます。大人の歯が生えてきたら歯間というのがなくなってくるんです。子どもは歯の間は割とすきっ歯です。生えてきたら今度は顎のほう小さくて、歯のほう大きい、混合歯列期になり歯がガチャガチャで、むしろフロスで磨かないと磨けない。だから、子どもと言っても6歳、小学生になってきたら大人の歯が生えているものだと思って、重なっているところは補助的清掃用具で磨いた方がいいです。

【西川会長】

- ・歯は上と横と前後の5面があるので、だから5面あるということをもうちよっと言ってもらってもいいのかなと思います。
- ・続きましてアルコール。
- ・医学の方ではデータで言うとAST40、ALT30で健康診断で引っかかるのが肝臓周りで変更になったことなどがあります。
- ・医療界からはアルコールは、今までお医者さんもガンガン飲んでいましたから、何とも言いにくいんですけど、ものすごい量ですよ。自ら反省しないといけない。ここで、適正にしらしめると。少々飲んでもγ-GPTの値くらいしか上がらないこともあって危機感が薄かったかと思えます。これを抑えることによっていろんな病気を予防できる可能性があります。

【新村副会長】

- ・飲酒は肝臓だけではなくて、脳の海馬を委縮させるというような問題も最近すごく言われており、やっぱり改めて大人の方は自己責任ですがある程度適量を飲んでいただくということですね。
- ・やっぱり子どもは飲んじゃいけないというのはすごく思いますが、計算してみると結構な人数が飲んだことあると回答しているなど。80名以上が小学生も中学生も飲酒経験があるということに回答されている。ちょっと気になったのは家族に勧められたからという回答も結構あるので、親御さんにもちゃんと認識していただかないとダメなんだなということ、すごく気になったのがその他が多すぎて、小学生が52.4%、中学生が38.2%ということで、なかなかこういうアンケート調査でその他がこれだけ突出して多いというのは見る機会がないので、何か自由記述とかあるのでしょうか。

【事務局】

- ・調査票の選択肢としては括弧で自由記述欄があります。その他内容は非常にわかりやすい結果ですが、間違えて飲んだとなっています。これは内部でも話が出ましたが、最近のお酒はわかりやすくビールとかそういう形ではなく、フルーツのイラストであったり、きれいな写真が描いてあり、お酒かどうかわかりにくいのでおそらくご両親が自分が飲むために冷蔵庫に置いてあったものを、ジュースを飲もうとしたらお酒だったり、お茶だと思ったりということかと思えます。実際、今記述データに目を通しましたが、ほとんどそういうものばかりでした。

【新村副会長】

- ・ということはこの86ページのそれぞれ80人ほどの飲んだというお子さんの中で、結構な割合が間違えているという認識でよろしいですかね。全部じゃないとは思いますが、結構な数が間違いで、意図的に自分から進んで飲んだとかそういうことは。

【事務局】

- ・今どんどんデータを見ていますけど、ほとんど間違えた、あとお正月、若干あるのがいろいろお菓子にちょっと入っていたという飲酒と呼ぶべきか難しいところもありますが。

【新村副会長】

- ・ではうっかりが結構多いですね。

【事務局】

- ・そうですね。あまり自分から意図的に進んでというような形はほとんど見られません。

【新村副会長】

- ・ちょっと安心しました。

【西川会長】

- ・他にお気づきのところはありますか。

【谷掛委員】

- ・91ページ、アルコールの適正量を知っているかでは、前回調査と比べると知っているが大きく減少し、年齢が下がるにつれ知っているが少なくなっていますが、アルコールを飲む人が少ないという結果が出ているので、その影響力が大きいのではないかと思います。
- ・アルコールを飲まない、かえってそういうことを知る機会が減ってしまうので、伝える広報をしていくのか、もうアルコールを飲んでいないからいいよとするのか、啓発について問われてきたと思います。

【西川会長】

- ・ありがとうございます。飲まないから知らないということはあるかもしれないですね。
- ・例えば、一般的には脳の間質にあたる脳細胞の減少やビタミンB1欠乏によるコルサコフ症候群など医学ではすでに名前がついている認知症の脳の変化が知られています。
- ・飲むという人がいたらちゃんと教えてあげる、妊娠・授乳中についてはゼロを目指して啓発していただければと思います。
- ・次にまいります。健康管理。

【新村副会長】

- ・98ページ、健康に関する情報などを誰から入手していますかで、前回に比べて新聞、テレビ、ラジオというのがぐっと減ってインターネットにシフトしているんですけど、この数年の間にそういう変化が見られたというのは、何かこの地域に限ったことなのか全国的なものなのか。

【事務局】

- ・基本的に健康に限らないですが、情報源というのは大まかインターネットにシフトしていますね。正直、テレビのようにつけたら勝手にプッシュされるのではなくて、自分で必要な情報や興味のあるものを取りにいく形の方が多いので、特に最近の若い大学生だとかそういう人は、一人暮らしを始めた時にテレビが高いというのがありますが、購入しないという人が多いので、新聞やテレビ、ラジオをそもそも手元に持っていないという人が多いかと。その結果、インターネットに一局化するという形になると思います。

【新村副会長】

- ・分かりました。ありがとうございます。ちょっと気になっていて、大学生も今こんなニュース知っているかと聞いても知らないという子が多く、世間を騒がすようなニュースとかでも、新聞とかも見ないと、ちょっと前までならネットニュースは見ますという子がいたのですが、最近ではネットニュースも見ないという子が増えてきているような状況で、必要なことだけキーワードを入れて調べるというのが、大学でも危機感を感じていました。例えば、ダイエットをするという目的ができたときに、インターネットで調べると本当に根拠のない、浅い、危険度の高い情報も出ているので、一般的に考えたらそれは間違ったやり方だというのがわかりそうですが、自分が調べたのがたまたまヒットしたのがそれだと、それだけを信じてしまうというリスクもありまして、この健康に関する情報というところはやっぱり正しい情報を市の方から何か発信していただけたらというリスクを感じました。

【西川会長】

- ・偏った情報にならないように健康情報の啓発みたいなものがあれば。
- ・ちょっと急いでいることもありますので、次の議題に移りたいと思います。

【事務局】

- ・それでは、次第2の「策定委員会及びワーキング会議の開催状況について」説明いたします。令和5年9月5日に開催いたしました第1回審議会以降の状況について説明させていただきます。
- ・審議会での意見を踏まえ、次第1で説明させていただいたアンケート調査を実施いたしました。令和6年3月13日に第1回ワーキング会議を開催し、これまでの進捗状況の確認や各課の取り組みの評価をするとともに、本計画を推進していくための具体的な取り組みについて、情報共有を図り、本計画の各分野に関連する各課の事業について進捗管理の確認を行いました。
- ・さらに令和6年6月3日に第2回ワーキング会議を開催し、分析の出たアンケート結果、計画骨子案の共有、現計画に基づく各課の取組状況について確認を行いました。社会環境の質の向上、健康で幸せに暮らせる街の実現といった視点から、6月のワーキング会議には都市政策課、環境政策課にご出席いただきました。
- ・また、令和6年7月2日に庁内関係各課の課長級の会議であるワーキンググループ会議上部組織である策定委員会を開催し、分析の出たアンケート結果、計画骨子案について議論を行いま

した。計画骨子案につきましては、本日の議題3となっておりますので、後ほど詳しくご説明いたします。以上です。

【西川会長】

- ・何かご質問ございますでしょうか。特にないようですので、それでは次の骨子案、こちらをお願いいたします。

【事務局】

- ・はい、それでは計画骨子案についてシティコード研究所さんより説明をさせていただきます。シティコード研究所さん、よろしくお願いいたします。

【事務局】

- ・それでは資料2、骨子案、2ページもの資料をお手元にご用意ください。1章から3章までの中身の構成について説明いたしますが、計画は、「第1章 計画の策定にあたって」「第2章 健康・食育を取り巻く状況」「第3章 取組内容と目標」の3章構成としています。
- ・「第1章 計画の策定にあたって」では、計画の大きな方向性を示すものとして、現行計画が令和6年度、お手元の資料では令和5年度と書いてあるかと思いますが、これは間違いです、令和6年度で終期を迎えることに伴い改定するもので、健康増進法と食育推進法に基づく市町村計画として、令和7年度から18年度までの12年間を計画期間とする新たな計画を策定します。また、令和12年度に中間評価を行い、13年度以降の取組方向を定めることとします。
- ・基本的な考え方のうち、基本理念については現行計画のものを踏襲せず、上位計画である門真市第6次総合計画の基本目標に合わせ、「地域の中で生き活きと、健康で幸せに暮らせるまちの実現」と改めることを考えています。
- ・また、現行計画では触れていませんでしたが、国や大阪府の方向性に倣い、健康寿命の延伸を基本目標として掲げます。
- ・基本方針については、現行計画で掲げた内容を踏襲し引き継いでもよいのですが、刷新するかどうかも含めこの審議会でお諮りいただきたいと考えています。ちなみに現行では門真市が抱える健康食育に関する課題の解決に向けた5つの項目として、資料で丸ポツで箇条書きになっているものが基本方針として掲げられており、概ね計画の進め方や進行管理に関するような方針となっています。
- ・「第2章 健康・食育を取り巻く状況」では、健康や食育に関わる現状を統計データなどから端的に紹介するとともに、現行計画で掲げた目標指標の達成状況と評価を整理した上で、今後の課題と方向性について総括します。資料では課題の例示として、朝食欠食、野菜摂取量の増加など食生活の改善、運動習慣の普及・定着、喫煙率の低下や望まぬ受動喫煙の防止、むし歯罹患率の低下をあげています。
- ・「第3章 取組内容と目標」では、栄養・食生活から健康管理までの7つの分野ごとにめざす姿や取組の方向性、目標指標をわかりやすく示していければと思います。計画骨子案についての説明は以上です。ご感想やご意見を頂戴できればと思います。先ほど述べました基本方針について踏襲すべきかも含め審議をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【西川会長】

- ・それでは計画骨子案について何か。特に反対するという事はないと思うのですが、ご意見ご質問などございませんでしょうか。

【市原委員】

- ・先ほど計画策定の目的で、前計画が令和5年度でなくて、6年度で終期を迎えるとおっしゃいましたが、この現計画のことですか。

【事務局】

- ・はい。

【市原委員】

- ・これは去年の第1回のときに見せてもらったときに、この現行計画が平成34年度までで、その年に最終評価ということで平成34年というのは令和4年度ですけれども、これは健康日本21が1年延長するという事で去年度末までということですか。それでいくと、令和6年度が空白の年度になってしまっているような気がしていたので、その辺のところを確認したいと思いません。

【西川会長】

- ・はい。公的には空白になってしまっているということですか。

【事務局】

- ・国が計画を延長したことに伴いまして市も計画を延長するという形で5年度に延長したんですけれども、国が5年度に策定をして、6年度から開始という計画を大阪府も同様に作っていましたので、その新しく出てくる内容を見て市の方を策定をさせていただこうということで進めております。
- ・ですので、5年度に延長したのをさらに6年度まで延長するという形で、空白をなくすということで6年度までの延長ということになるのですが、正式には5年度までの延長しか表明していないというところになっています。
- ・今年作らせていただき、来年の7年度から18年度までの12年計画を進めようとしております。

【西川会長】

- ・その後、門真市第6次総合計画基本目標に合わせるというというのが今回から入ってくるんですかね。

【事務局】

- ・はい、今回の目指す目標を第6次総合計画の基本目標02に合わせるということを今回からさせていただく予定です。

【新村副会長】

- ・資料の2ページ目、第3章の取り組み内容と目標で、前回のものを見させていただきますと、1が運動・身体活動、2が栄養、3がタバコと順番が変わってまして、この番号を振ってある運動・身体活動と栄養・食生活、タバコ、この3点が重点分野として挙げられてその並びに説明もされていますが、今回順番を変えたということは何か意味があって変えられたのか、単純にあまり順番に今回は意味がないのか。この並びの栄養・食生活、運動・身体活動、心の健康・休養というところが重点分野になってくるのかなという印象を受けるのですが。

【事務局】

- ・順番については単純に国の方の計画に合わせる形にしようかどうかという判断で、そのようにしました。

【新村副会長】

- ・地域に必要なものではなく国がこの順番になっているから今回はこの順番ということですね。はい、わかりました。

【谷掛委員】

- ・基本方針の2つ目に個人や家庭の主体的かつ継続的な健康づくりや食育の推進をめざしますとあるのですが、もしこのまま踏襲するのであれば、食育の推進をめざすというよりは、個人や家庭が主体的に進める活動になるので、市としては支えると言う方がしっくりするかなと思います。
- ・あと、基本方針の4つ目、行政とか市が一丸となったと記載されていますが、官民連携は門真市も進めてくれていると記憶していますが、この内容も追及しつつ府立高校や私立高校、大学、専門学校など、市であれば教育委員会が入っているから小中は入るんですけどもそれ以外の学校との連携、たとえば門真市内にある学校との連携なども追記できるといいのかと思います。
- ・今後の課題と方向性について、アンケート結果と連動した方向性を示していただけなのかと思いますが、今回ちょっと気になったストレス解消、休養・睡眠などや、幼児のう歯は実は門真市の歯科健診なんかのデータを見させてもらうと、府下ではやっぱりちょっと高いんです。むし歯が多いという結果が出てるので、その辺が気になると、たばこ、アルコールに関しては多分60代の方々以上になるけれどその方々の影響で受動喫煙がというご意見も出ていたので、その辺も合わせて何かできればと思いました。

【西川会長】

- ・的確なご指摘ありがとうございます。教育なんかはすごく大きな分野で、やっぱりどの階層に渡ってもちゃんとしないといけないし、インターネット広報も正確な健康情報を伝えなければいけないし、これはすごく大事な役割だと思います。
- ・計画案ではこれします、これしますと書いてありますが、本当に実現したのかということ、言っただけで終わっており、情報をちゃんと伝えて施策がうまく回っていますよという、方法論とか、その方法論が回っている評価がないので、何かまずいなという気は素人の方からすると思います。健康にするための伝え方、それがシステムとして回っている感じ、ポイントが当たるみたいな、それがうまく回っているかどうかは評価対象にならないので、改善計画が転がっているのもっと評価する、市の人がやってくれているのを評価するようなことがないと、健康にならないんじゃないかという気がします。
- ・他にございませんでしょうか。それでは次の議題に移ります。今後の計画策定スケジュールについてご説明をお願いいたします。

【事務局】

- ・それでは、【資料3】の「第2次門真市健康増進計画・食育推進計画策定実施スケジュール（案）」をご覧ください。第3回目の策定委員会と本審議会では、計画素案を作成し、パブリ

ックコメントを実施したいと考えております。パブリックコメント終了後に第4回目の策定委員会と本審議会をそれぞれ開催し、パブリックコメントの結果を踏まえ、計画案としてとりまとめ、最終的に本審議会から答申を行いたいと考えております。

- ・ワーキンググループにつきましては、計画進行状況・評価に基づく具体的な取り組み案の検討の場として、複数回設けていきたいと考えております。以上でございます。

【西川会長】

- ・はい、ありがとうございます。ただいまの事務局のご説明、何か質問やご意見ございませんでしょうか。
- ・パブリックコメントはあるんですね。

【事務局】

- ・また後程お知らせいたしますが、11月頃この審議会を開催いたしまして、その後パブリックコメントを開催したいと思います。

【西川会長】

- ・前回も行ったのですか。

【事務局】

- ・中間見直しの際にもパブリックコメントを実施しております。

【西川会長】

- ・はい、ありがとうございます。ワーキンググループについての詳細というのはどんな。

【事務局】

- ・ワーキンググループでは素案を作るために各庁内でどのような取り組みができるかを洗い出します。それを基に素案を作りまして、今度の策定委員会あるいは審議会に諮らせていただくということになりますので、何回かご意見を集める時間を持つかと思っております。

【西川会長】

- ・ワーキンググループは市の人のグループということですか。

【事務局】

- ・はい、各課の実務者といいますか、取り組みを行う者が集まって話をするというグループでございます。

【西川会長】

- ・はい、ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。それでは議題5のその他であります。委員の皆様のご意見をこちらでお伺いするという仕組みになっておりますので、よろしく申し上げます。これ一人ずつお話ししても大丈夫ですかね。

【事務局】

- ・お時間も迫っておりますので、ご意見のある委員様には手挙げをお願いいたします。

【西川会長】

- ・それではないようですのでその他は終了いたしますので、事務局よりご説明をお願いします。

【事務局】

- ・本日の審議会にていただいたご意見を踏まえ、策定委員会及びその下部組織でありますワーキンググループにおいて議論を重ねるとともに、審議会委員の皆様にもご意見を伺いながら計画策定案を作成し、11月8日に第3回審議会を開催し、パブリックコメントに向けて準備を進めさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

【西川会長】

- ・では時間ですので今日は終了でございます。ご苦勞様ですありがとうございました。

(以上)